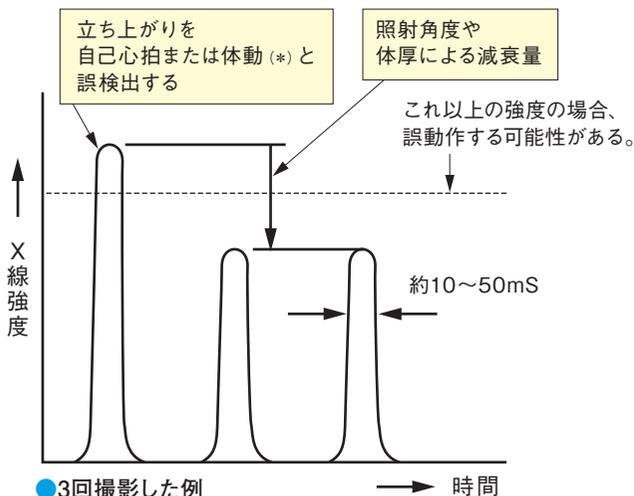


X線撮影時のX線強度の変化

●X線条件：60～140kv、100～400mA程度

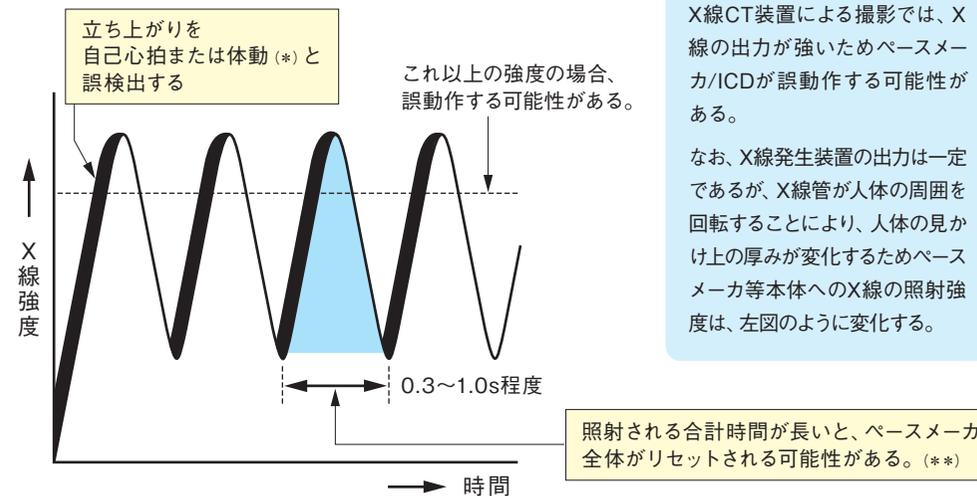


撮影時の条件により、ペースメーカー/ICDが誤動作する。この例では、1回目の撮影条件でのみ、誤動作する可能性がある。

なお、X線発生装置の出力は一定であるが、照射方向により見かけ上の人体の厚みが変化するためペースメーカー等本体へのX線の照射強度は、左図のように変化する。

X線CT装置によるCT撮影(連続スキャン)時のX線強度の変化

●X線条件：120kv、200mA程度

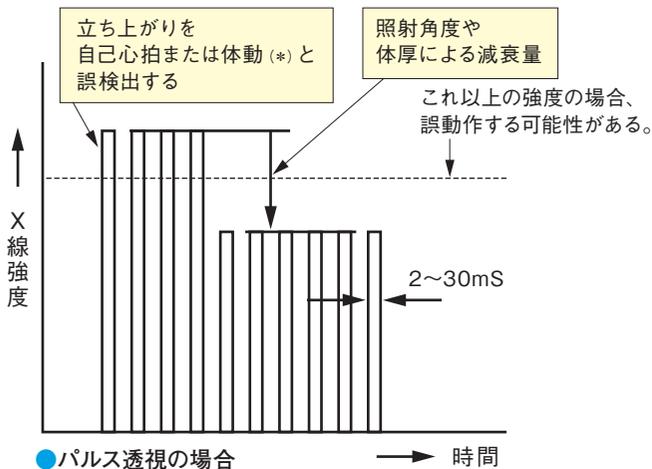


X線CT装置による撮影では、X線の出力が強いためペースメーカー/ICDが誤動作する可能性がある。

なお、X線発生装置の出力は一定であるが、X線管が人体の周囲を回転することにより、人体の見かけ上の厚みが変化するためペースメーカー等本体へのX線の照射強度は、左図のように変化する。

X線パルス透視時のX線強度の変化

●X線条件：65～100kv、0.8～2mA程度



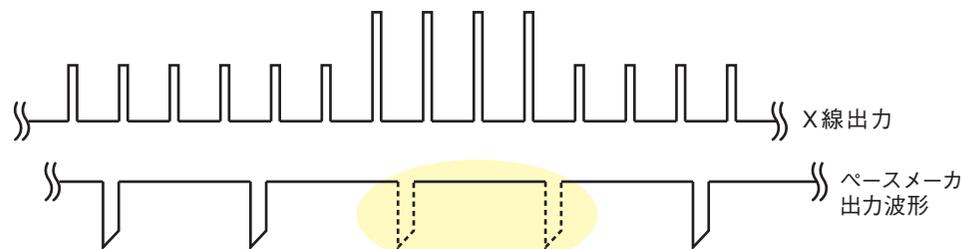
透視時の条件により、ペースメーカー/ICDが誤動作する。この例では、最初の4回の撮影条件でのみ、誤動作する可能性がある。

なお、X線発生装置の出力は一定であるが、照射方向により見かけ上の人体の厚みが変化するためペースメーカー等本体へのX線の照射強度は、左図のように変化する。

パルス状のX線照射

この図はオーバーセンシングでペーシングが抑制されるイメージを示すものです。

ペースメーカー出力波形



出力波形がなくなり、ペーシングが抑制されている。

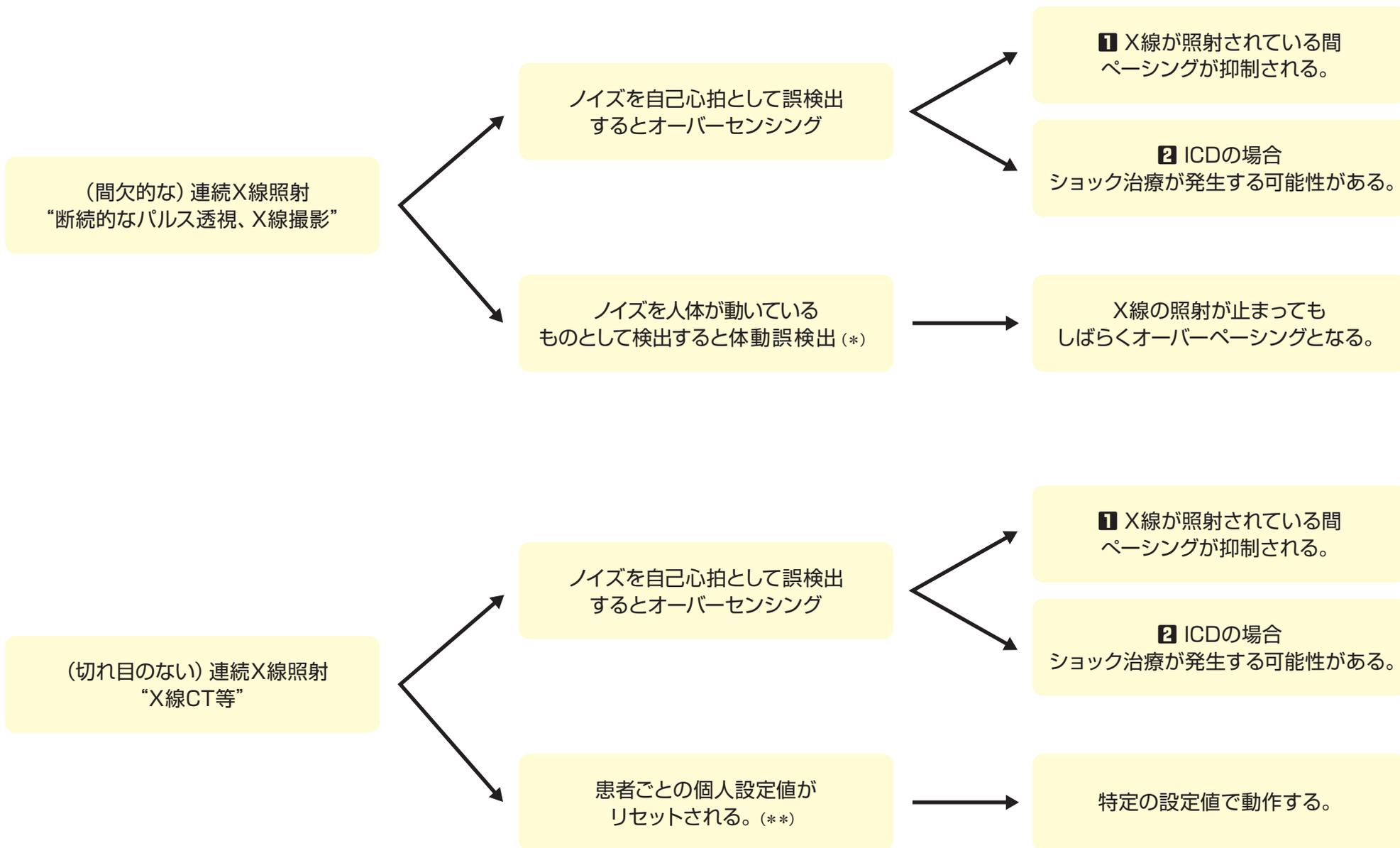
*ペースメーカー/ICDの機種によっては現象が発生する場合があります。
(注意) X線条件、時間等は目安です。

**ペースメーカーの機種によっては現象が発生する場合があります。

X線装置/X線CT装置

ペースメーカー/ICD

現象



*ペースメーカー/ICDの機種によっては現象が発生する場合があります。

**ペースメーカーの機種によっては現象が発生する場合があります。